

ソーシャルコーディングにおける有益提案の抽出

江見 圭祐^{1,†1} 乃村 能成¹ 谷口 秀夫¹

概要：ソフトウェア開発において、ソーシャルコーディングと呼ばれる手法が広がりつつある。ソーシャルコーディングで進められるプロジェクトには、様々なユーザからソースコードの改善に関する提案が寄せられる。これら提案の採否の判断には、提案の内容だけでなく、提案を提案したユーザの評判も影響を与えている。本論文では、ユーザの評判によるバイアスを排除した提案の良し悪しの指標を述べ、提案にまつわるユーザの行動から、その指標を算出する手法を示した。次に、本手法が算出する指標を評価し、指標が有効に機能することを示した。最後に、評価結果を分析し、実際の提案の採否の判断にユーザの評判によるバイアスが存在する可能性を確認した。

本招待論文は、情報処理学会論文誌に掲載されました
「ソーシャルコーディングにおける有益提案の抽出」[1] についてご紹介いただくものです。

参考文献

- [1] 江見圭祐, 乃村能成, 谷口秀夫: ソーシャルコーディングにおける有益提案の抽出, 情報処理学会論文誌, Vol. 59, No. 2, pp. 486–495 (2018).

¹ 岡山大学大学院自然科学研究科

^{†1} 現在, サイボウズ株式会社